

第3回クラーククラブ演奏会

開催日	平成12年10月1日(日)	会場	品川きゅりあん大ホール	開場	午後1時30分	開演	午後2時
-----	---------------	----	-------------	----	---------	----	------

プログラム

- I 組曲「わがふるき日のうた」より
 I. 贅(い)のうへ 作詞: 三好 達治 指揮: 井上 勝
 II. Enfance fini(過ぎ去りし幼年時代) 作曲: 多田 武彦
 III. 郷愁
 IV. 鐘なりぬ
 V. 雪はふる
- II 組曲「月光とピエロ」 作詞: 堀口 大学 指揮: 清水 富雄
 I. 月夜 作曲: 清水 脩
 II. 秋のピエロ
 III. ピエロ
 IV. ピエロの嘆き
 V. ピエロとピエレットの唐草模様

(休 憩)

- III 黒人霊歌 指揮: 清水 富雄
 ・Swing Low, Sweet Chariot
 ・I Couldn't Hear Nobody Pray
 ・Go Down Moses
 ・Ain't It a Shame
 ・Soon a will be done
- IV 男の哀愁曲集 指揮: 井上 勝
 ・My Way 伴奏: 井上 代志子
 ・アカシアの径
 ・死んだ男の残したもの
 ・明日に架ける橋

＜メンバ＞

- | | | | |
|---------------|---------------|---------------|---------------|
| ★Top Tenor | ★Second Tenor | ★Baritone | ★Bass |
| 首藤 栄三 (S27) | 清水 富雄 (S32) | 生出 正也 (S22) | 遠藤 良治 (S28) |
| 渡部 敏彦 (S32) | 新 海 洋 (S32) | 千 葉 裕 (S25) | 新 井 進 (S32) |
| 佐藤 清一 (S33) | 佐藤 昭男 (S33) | 横 山 和 昭 (S26) | 小 山 邦 武 (S34) |
| 藤 田 実 (S35) | 千成 睦夫 (S34) | 越 後 明 (S34) | 中 島 庸 介 (S34) |
| 小 亀 慶 曙 (S37) | 越 田 和 弘 (S35) | 金 沢 恒 寿 (S35) | 大 槻 邁 (S35) |
| 高 橋 信 行 (S37) | 田 嶋 謙 三 (S35) | 後 藤 康 之 (S36) | 景 浦 暁 (S35) |
| 山 崎 平 馬 (S41) | 金 俊 彦 (S38) | 西 村 公 男 (S36) | 片 岡 義 彦 (S39) |
| 小 林 捷 治 (S42) | 御 厩 元 宣 (S41) | 千 田 正 彦 (S38) | 林 雄 嗣 (S39) |
| 佐 藤 昭 (S43) | 井 上 勝 (S42) | 赤 羽 仁 (S39) | 八 島 哲 郎 (S39) |
| 菅 田 晴 夫 (S46) | 大 橋 英 明 (S59) | 尾 寄 耕 策 (S40) | 若 原 弘 道 (S39) |
| 一 入 章 夫 (S59) | 辻 井 泰 人 (S60) | 古 田 真 (S45) | 天 野 雄 (S41) |
| 平 田 真 一 (H02) | 竹 村 圭 介 (S62) | 児 玉 健 (S54) | 前 川 勝 義 (S42) |
| 鈴 木 政 則 (H02) | 水 戸 達 彦 (H01) | 土 居 信 英 (H02) | 高 岩 勝 (S42) |
| | 西 野 政 邦 (H03) | | 掛 井 勝 (H08) |

★クラーククラブ実行委員会

- 統 括 藤 田 実
 技 術 清水 富雄、井上 勝
 パートリーダー 小 亀 慶 曙(1T) 御 厩 元 宣(2T)
 越 後 明(1B) 若 原 弘 道→林 雄 嗣(2B)
 司 会 佐 藤 昭 男
 庶務・会計 御 厩 元 宣、竹 村 圭 介
 通信・広報 赤 羽 仁、井 上 勝
 進 行 辻 井 智 代
 デザイン・印刷 林 雄 嗣、辻 井 泰 人
 プログラム: ご挨拶 クラーククラブ代表 遠藤 良治

★東京OB会 幹事会

- 会 長 : 遠藤 良治
 幹 事 長 : 赤羽 仁
 幹 事 : 越後 明、小亀 慶曙、若原 弘道、林 雄嗣
 御 厩 元 宣、井 上 勝、竹 村 圭 介

♪ 井上 代志子さんくピアノニスト

北海道に生れた代志子さんは旭川北高校時代から合唱活動を行い、札幌藤女子短大では学生指揮者として活躍し、その後はヤマハ音楽教室ピアノ講師を務めていたが、井上勝氏との出会いが実り結婚されたとのこと。彼の「転動がないから」という言葉は、良くある話ではあるが全く裏切られたものとなり、東京、更に6年に及ぶパリへの転動を経験することになった。しかし、ここでめげないのが彼女の素晴らしいところである。パリ在住の日本人女性を集めて「コール・ソレイユ」を結成し、合唱活動を始める他に、ホテル・ド・ニコニーや国際文化村日本館での演奏会を開催してしまふのである。こうした積極的な活動は1989年の帰国後も止まることを知らず、保谷市で女声合唱団「コール・ソレイユ」を結成し、地域に根付いた合唱活動に取り組んでいるそうです。いつもキラキラ光る情熱をその瞳の中に感じているのだけれど、今回の演奏会では御主人勝氏の編曲になる「男の哀愁曲集」のステージで、素晴らしいピアノ伴奏を聴かせてくれることになっている。長い間、互いに支え合って演奏活動を続けていらっしやっただお二人にとっても、今回のステージは特別なものになるのではなからうか。諸読みの段階から私共の練習会場に足を運んで、下手な合唱にお付き合い下さったことに対して心から御礼申し上げる次第である。(林 雄嗣)